

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン
取組の概要と推進委員会からのコメント

		整理番号	7
申請担当大学 (連携大学)	大阪大学(計7大学) (京都府立医科大学、奈良県立医科大学、兵庫県立大学、和歌山県立医科大学、大阪薬科大学、神戸薬科大学)		
プログラム名	ゲノム世代高度がん専門医療人の養成		
事業推進責任者	小泉 雅彦(大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻医用物理工学講座教授)		
取組の概要			
<p>本事業は関西7大学の連携により、ゲノム医療に基づくがんの診断・治療および緩和ケア・日常生活ケアに関わる人材養成、小児がん・希少がんの専門医療人を教育し、AYA世代～高齢者に至るライフステージのそれぞれの患者ニーズを理解し、患者の視点に立脚して、がん医療の各局面に必要な人材養成を行う。そして、これからの「ゲノム世代がん医療」を担い、多職種間の連携で、治療成績の向上と患者QOLの改善を実現することにより、関西地区の高いがん死亡率の現状からの脱却を図るとともに、個々の患者ニーズに応じて、患者満足度を上げる。また、専門家でなくてもゲノム情報を理解し、小児がん・希少がんの知識も保有する医療人の養成、患者のライフステージに応じた生活の悩みをサポートできる人材も育てることにより、がん医療の均てん化を推進する。</p>			
推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○教育コースにビギナーコースとアドバンスコースを設けることや、医療従事者のみならずソーシャルワーカーや検査技師のためのプログラムなど、独自性が高い教育プログラムを数多く構築する構想であり評価できる。</p> <p>○ゲノム医療を中心に据えているが、レベルに応じたコースが準備されており個別医療全体のレベルの底上げに貢献できると考えられる。</p> <p>○AIを利用した治療方針決定や効果判定などは、複雑化する個別医療の最適化の一助となると考えられ、評価できる。</p> <p>○患者団体・地方自治体などと連携を強化していく取組は、社会ニーズの拾い上げという観点から評価できる。</p> <p>○キャリア教育やキャリア支援に十分配慮した構想となっている。</p> <p>●ライフステージの特性に応じた治療を実践する上で特に高齢者の特性(老年医学等も組み入れて)に対応できる人材の養成についても検討する必要がある。</p> <p>●がん死亡率の改善を目指すのであれば、検診に代表されるがん予防についても熟知した人材の育成が必要であり、内容の充実が望まれる。</p> <p>●参加大学との連携と事業の運営方法について各種委員会等の設置も含めて実効性を担保できるよう検討を行う必要がある。</p> <p>●年度別計画について、年度に応じた事業の展開や、最終取りまとめに向けた具体策について検討する必要がある。</p>			